

**真の知識 (マルコ 12:18-27)**

復活はないと言っていたサドカイ人たちが、イエス様に来て、復活はありえないだろうという内容の質問をしました。そのとき、イエス様は「聖書も神の力も知らない」から思い違いをしていると言われたのです。科学的思考は、確かな根拠と証拠に基づいてアプローチする考え方ですが、見えることに限られるので、そのまま聖書を見ると、聖書も神の力も知ることができなくなります。

**1. 聖書が正しくわかると、世の論理から自由になり、Only キリストになる。**

1) 見えるもので成り立つ世の論理

科学的、合理的(3、6、11)-限界

この世にはいろいろな論理がありますが、見えるもので成り立っていて、人間がすべて、生きている世界がすべてだという大前提の上に成り立っています。それゆえ、正解でも絶対でもなく、限界があります。それをサタンが絶対だと思わせて捕らえています。

2) 霊的世界と霊的事実-ヘブル 11:3

霊的世界と霊的事実は、信仰によって見えない世界があることを信じますが、霊的世界と事実のほうが、メインなのです。創造の神様がおられ、人間はたましいのある神のかたちとして創造されました。悪魔(サタン)が空中の権威を持って惑わしています。天使も、罪や自犯罪の根源にある原罪もすべて目には見えません。死んだら天国か地獄に行きます。これらは見えない霊的事実です。

3) 聖書を正しく知ることは-Only キリスト  
このような目に見えない霊的世界を正しく知り、認めると only キリストとなります。霊的事実を知るなら、他は希望にならないことが分かります。悪魔のしわざなら、女の子の孫、キリスト以外に希望はありません。

4) 世の論理から聖書を見ると矛盾だらけのように

聖書は Only キリストを語っています。長男が死ねばその妻が次男に嫁ぐということも、キリストが来られないといけないので、種をつなぐという意味です。聖書を正しく知ることが肝心なポイントです。

5) 霊的事実を基本に、Only キリストの目で  
霊的事実を基本に only キリストで、聖書、人生を見ましょう。本を読んでヒントを得ても、答えは聖書から見つけるべきです。

**2. 神様の力が正しくわかると、揺れない救いの確信と復活の希望をもって生きる。**

1) 創造(無>有)と管理

聖書を正しく知ると、揺れない救いの確信、復活の希望を持ち、Only、唯一性、再創造の主人公になることを実際に味わえます。神様の力は、創造の力です。信仰によって悟ることが出来ます。神様は「あれ」ということばですべてを創造され、人類、歴史を管理されています。

2) 再創造-エペソ 2:1-3>4-6/

ヨハネ 8:44>ローマ 8:15 (救い)

ヨハネ 11:25-26、マルコ 12:26

そして、創造にまさる力である「再創造の力」で、墮落してたましいが死に、サタン、地獄の子の運命を生きていた私たちを引き上げ、また新しく創造しなおされます。罪と罪過で死に、空中の権威を持つ支配者に支配され、生まれながら御怒りを受けるべき子だった者を、キリストとともに生かし、ともに天のところに座らせてくださる、それが再創造の力です。悪魔から出た子を、神の子として神様を「アバ父」と呼べるようにしてください。新しく造り変えてくださるのです。イエスを信じる者は、死んでも生きると言われました。再創造されたので、肉的に死んでもいのちは死なないのです。神様には罪人を救う再創造の力があります。死んでいた者にいのちを与えて、地獄から神の国の子に、悪魔の子を神の子にするのが神様の力です。

3) 復活は十分可能-イエス様がそのサンプル  
神様の力がわかるなら、復活は十分可能で

す。たましいの救いが可能なら、肉体がよみがえることは可能だと、キリストによる救いを通して明確に示していただきます。

4) 神様の力は、救いを成し遂げられ、救いを完成なさる。

キリストによる救いは偉大なものであり、人間の論理を上回る神様の力です。

5) 条件や環境、状況と関係なく救いを確信し喜べる。

聖書を正しく知り、only キリストとなり、神様の力を知りましょう。そうすれば、心配する必要もありません。救いの確信を持つなら、どんな苦難、誘惑でも、復活の希望をもって落胆しません。自分の論理や自分の水準で信仰生活をするのでなく、キリストと完全で永遠な救いを与えられる神様の力を信じる信仰による信仰生活をしましょう！

聖書を通して、キリストをより深く！祈りを通して、神様の力をより深く！そのことにより、勝利の主人公となりましょう。

1部-マルコ 12:18-27 真の知識

なるほど/聖書を正しく知ると、世の論理から自由になり、神様の力を正しく知ると、揺れない救いの確信と復活の希望をもって勝利の人生を歩くことが出来る。  
ならば/自分の論理と水準で信仰生活をしようとしなくて、聖書と神様の力を信じる信仰をもって、信仰生活に挑もう！

2部-使徒 1:6-8 信者のアイデンティティー

なるほど/信者は、キリストにあって、残された者、巡礼者、征服者である確信と自負を持つとき、世の流れに流されず人を生かせる証人の道を歩くことになる。  
ならば/自分の思い、考えを下ろして、世の評価も気にせず、ただキリストにあって、御言葉の前で、「自分は誰なのか？」を問い続けよう！